

## 2018 年末手当交渉・会社の考え

本部は、11月8日、2018年年末手当交渉・会社の考えを行いました。  
以下、報告します。

会社より。

まず、運輸収入について、10月末時点での年度累計は、7月期計画に対して、コンテナ82,8% (△116億円)、車扱99,1% (△0,5億円)、合計84,2% (△116,6億円) と大幅なショートになった。

運賃改定については、進捗状況を集計しているが、その効果は徐々に始めている。経費については、今年度の経常利益の黒字確保に向けて、あらゆる改善策を検討していく。これまでの交渉の中で、貴労組より「台風・地震と未曾有の災害を受け、厳しい状況であることは理解するが、人件費に手をつけるのは認めない」「2年連続の鉄道事業の黒字を達成し、今年度についても目標達成に向け奮闘している」「期末手当は生活費の一部である」「結果次第で社員の士気が下がってしまう」等の主張がされ、会社として真摯に受け止め議論を進めてきた。

今年度は自然災害の影響により、山陽線では長期間にわたり不通となるなど、阪神淡路大震災・東日本大震災に匹敵するほどの災害となった。その中で、収入確保のため、社員の皆さんには不慣れな臨時作業に加え、代行輸送、迂回運転等に対応して頂いたという認識を持ちつつ、会社として、災害時の代行・迂回体制のシミュレーションを行うとともに、インフラ整備について支援を求めている。

現在、災害による減収は甚大であり、離れていった荷物が戻らないなど、この先の不安定要素も大きく、まさに「厳しい」の一言に尽きる状況であり、今年度の経常利益の黒字確保に向けて、収入確保を最大限に努力するとともに、無駄な経費は可能な限り削減することで、一層の収支改善を図っていききたい。

以上のことを踏まえ、現時点、「昨年月数は非常に厳しい」と考えている。

組合・昨年月数とは、昨年年末手当1,64ヶ月のことか。

会社・その通りである。

組合・会社の厳しい状況は理解するが、会社の考えには納得できない。社員は災害により下がった営業収益を少しでも取り戻すため、日々、安全安定輸送に努めている。会社の考えを聞

---

いてモチベーションを下げてしまったら、会社全体の士気も下がり、経営にも悪影響がでる。今回は災害等により営業収益が落ちているが、平成28、29年度は、経常利益（連結）100億以上を2年連続で達成し、悲願であった鉄道事業黒字も2年連続して達成した。これは社員の頑張りがあったからである。社長も代わり、社員全員でJR貨物をさらに発展させようとする気持ちを逆撫でするような考えを改め、私達が着目している、利益剰余金を使って再考して頂きたい。

会社・考えに対して納得できないという主張は理解した。最終回答に向けて社内での議論を深めたい。

組合・0、1ヶ月の原資はいくらか。

会社・約2億である。

組合・回答予定日はいつか。

会社・最終回答は来週末を予定している。

組合・厳しい状況は理解するが、主張を理解し再考して頂きたい。

会社・社内で議論を深めていく。

以上

---